

令和7年度 月寒中学校「学ぶ力」育成プログラム

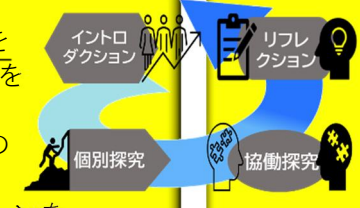
自ら課題を見付け、自ら学び、自ら問題を解決する資質・能力

学校番号：35002

「学ぶ力」	
これまでの成果	課題
<ul style="list-style-type: none"> ◇対話的な学びを実現するための授業改善を進めた。 ◇TT、少人数指導の充実を図り、学校評価アンケートにおいて、授業に興味・関心をもって取り組んでいると回答した生徒が84.2%であった。 ◇授業時数の確保に努め、テスト計画表の積極的な活用を学活などで行った。 ◇各教科での小テストや単元テストの実施回数を増やし、生徒の知識・技能の定着度の把握に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇単元の学習内容や学習課題によっては、生徒の知識の定着度の差が要因で対話的な学びが深まらない場面がある。 ◇授業内容の理解度に対する学校評価が低い（生徒87.3%）。また、見通しをもった学習への取組ができていない（生徒63.7%）。計画性の重要性を伝える必要がある。
「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く相互承認の感度〉の現状と課題	
<ul style="list-style-type: none"> ◇札幌市全体の共通指標アンケートにおいて、「人のよいところを見付けようとしている」に対して肯定的な回答をした生徒が88.7%と高い結果になった。 ◇しかし、「自分にはよいところがある」に対して肯定的な回答をした生徒が82.3%、「自分が必要とされていると感じる」に対しては64.3%と他の指標と比べて低い結果となっている。 	

「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力

様々な学習や活動で身に付けた知識や技能を活用し、創造的に思考し課題を解決できる力

	AARサイクルの視点で捉え直した 課題探究的な学習の推進	さっぽろっ子宣言「プラスのまほう」に基づく 自治的な活動の充実
取組	<ul style="list-style-type: none"> ◇子どもが課題を自分ごととして捉え、学びの見通しをもてるイントロダクションの方法を研究する。 ◇子どもが自己選択・自己決定できるような個別探究の時間を設定し、「明らかにしたい」という情意をもたせる学習課題を提示する。 ◇子どもが他者を求め、対話によって思考を再構築する時間の確保と、協働探究の方法を模索する。 ◇子どもが自らの成長や学びの進捗を自覚できるリフレクションを位置づけた単元の構成を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇自分たちの意思を実現できる生徒会活動を推進する。 ◇自分たちの問題を自分ごととして捉え、自分たちで解決する場面を設定する。 ◇道徳教育の推進に努め、自分たちの行動に責任をもつことなど、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養う。 ◇一人一人が「自分のよさ」や「自分が必要とされていること」に気付くことを通して、「自分が大切にされている」と実感できる学校、集団づくりを進める。

〈本プログラムの実行に向けて〉

